

# 知恵の樹

No. 142

2009. 9.16

町田の図書館活動を  
すすめる会

事務局：町田市森野 3-1-12 増山方  
〒194-0022 FAX 042-722-1243

## 子育てしながら働くということ

— 周りの人に助けられながら、明るく、元気に、前向きに —

町田市立中央図書館 海老澤 幸子



のっけからなんです、12才(小6・女)を筆頭に、小3・男、小1・女、2才・女の4人の子どもがいます。少子化の昨今、4人の子持ちは珍しいらしく(ま、いるところには結構いるのですが)近頃誰かが私を紹介する時の決まり文句は“4人の子どものお母さん”。

子どもが4人も持てる。これはとても幸せなこと、ラッキーなことだと思っている。周りからはいろんな声聞こえてくる。働いていてそんなに子どもは育てられない、子どもができたから仕事はあきらめた、何人も育てる経済的余力がない、ほしいけどできない……等々。私は、いいなあとも言われるし、すごいねとも言われる。でも、もちろん子育ては一人ではできない。私だけがすごいのではない。

さて、図書館職員の勤務がどうなっているかご存知だろうか。基本の勤務時間は 8:30～17:15 迄。夜間当番(火・水・金)になると、11:30～20:15 迄となる(2週間に1回程度)。土日も祝日も勤務がある(3回に1回)。ちなみにこの頻度は正規職員の場合。嘱託職員の残業は手当てがつかないのでできない。市の財政状況が厳しいので、正規職員が減らされる一方、仕事は減らないから当然残業も必要になってくる。会議などで残ることもある。そんな中で、私が働き続けられるのには、いろいろな応援があるから。

まず夫。本当なら、家にいてくれる奥さんがイイと思っていたのかもしれない。でも、ずっと仕事をしたいという私を認めてくれた。そして、共働きで子ども

がいるという状況がどういふものを理解して、とてもよく協力してくれている。料理をすることも、子どもに関わることも楽しんでやっていて、結果、炊事・掃除・洗濯・子育てなんでもできる。でもこれは必要なことだった。夜間当番や土日出勤の時、家にお母さんがいないのだからその日は“お父さんの日”。料理ができないから外食、とか、子どもの世話ができないから実家に逃げ込む、とか聞くことはあるけれど、それはうちの流儀ではない。基本的には自分たちで生活できること、これは守らなければいけないと思っている。初めから他の“何か”を当てにしているのは長続きしない。でも、いざというときに助けてくれる存在がいること、これも働き続けていくのに必要なことである。

夫婦二人で頑張ってもできないこともある。そんな時には近くの実家に助けてもらう。両親とも高齢にはなってきたが元気で、子どもの面倒はよく見てくれる。例えば子どもが熱を出す。最初病院に連れて行ったり、2～3日は何とかしても、1週間ともなればとても仕事を休めない。そんな時、快く孫を預かってくれる祖父母の存在はとてもありがたい。例えば習い事。基本的には自分たちで行けるようにしても、何かの時には送り迎えをお願いしたり、ちょっとした時間居られる場所(家)があるのは、とても心強い。

そして職場。私が所属する町田市には、妊娠すれば妊婦時短、妊婦通院休暇、産休・育休を経て、復職後は育児時短、部分休業と様々な休暇制度があ

る。制度があっても実際に利用できなければ絵に描いた餅だが、我が図書館にはそれらを利用できる空気がある。前図書館長は、図書館は子育てしながら働ける職場だということを示したい、と言っておられたが、上司を始め周りの職員が子育てに理解を示してくれ応援してくれる。これは非常にありがたい。時短を取れば、その分の仕事は周りにしわ寄せが行く。夜間や土日勤務を免除してもらえば、やはりそれだけ周りに負担が増える。休みに入れば代わりに臨時職員を雇わなくてははいけない。とても申し訳なく思うし、心苦しくもある。でもそれを、“いいよ”と言ってくれ“子育て頑張っ”と言ってもらえる。これは本当にありがたい。もしかすると内心は、迷惑だなあ、やっかいだなあ、と思っている人もいるかもしれないが、皆さん大人でそんなことは外に出さない。そんな皆さんの心の温かさに支えられて、仕事を続けている。

今、私に最も足りないモノは時間である。朝起きて、子どもの世話をしながら食事、送って行って出勤、仕事してお迎えの時間があるので早上がり、子どもを連れて帰って、夕食の支度をしながら今日の話を聞いたり宿題の相手をしたり、食事をしてお風呂…空き時間というものがない。子育て家庭には往々にしてあることだが、子どもが4人ともなるとそれは顕著である。夜、子どもを寝かしながら自分も寝てしまって、夜中ごそごそ起き出して、食器を洗い、洗濯をし、連絡帳を書き、場合によっては繕い物…。この夜中に起き出す時間だが、以前は1時間ほどで起きられたものだが、それが2時間・3時間と増えてきて、実は今起きる時間で一番多いのは夜中の2時頃である(再び寝るのが4時すぎ…)。下手をすると3時4時…そこまで行くと2度寝はできずそのまま朝…ということもある。(ちなみにこの原稿を書いている今はもうすぐ4時…)良くないとは思うがどうしようもない。あれこれ改善を試みないでもないが、できないものは仕方がない。体だけは壊さないように…とっている。元来丈夫なのが、ありがたい。

時間が足りないのは職場でも同じこと。自分の都合で、子どものお迎えのために早上がりさせてもらっているのだから仕方がないことなのだが、やらなければいけない仕事をいかに時間内にやり繰りしてこな

すかが課題である。急ぎでない仕事には目をつぶり、時間があれば別の整理もできるのに…と、思うようにできないことがもどかしくもある。

子育ては楽しい面白い。大変だけど感動する。言うことを聞かないけどかわいい。でもそんな時期はほんの一時なのである。私は、知の宝庫の図書館という場所が気に入っている。様々なお客様に悩まされ怒られたりもするが、感謝もされる図書館という仕事が気に入っている。子どもたちの読書や知識の幅をさりげなく広げる手伝いができるのもうれしい。そして、私自身の幅を広げるのにも役立っていると思う。

子育てしながら働くというのは楽なことではないけれど、良いことがたくさんある。自分の人生、いろいろなことをしてみたいじゃないの。子どもは、家ではできない体験を保育園でさせてもらって、保育園が大好き。でもお迎えの時には満面の笑顔で私に飛びついて来てくれる。学童保育所でもいろいろな友達と遊び、家ではさせてもらえないことをして経験の幅を増やしている。家での時間が大事なこともきっとわかってきているだろう。食器を片付けたり洗濯物をたたんだり、家のことをあれこれ手伝わなければならぬことに文句もあるが、それだけ家の仕事、生活に必要なことがわかってくるだろう(親の勝手な思いこみかもしれないが)。もちろん疲れてくたくたの時もある。でも、子どもの面白い言動や、“おかあさんだいき。ぎゅー！”や、おいしいお菓子などで元気を回復している。やっぱりお母さんは元気でなくちゃ。

子育ても(育てているなんてあまり偉そうに言えないが)仕事もどっちかなんて言わない。どっちも好きでやっている。比重は時期によって変わるが、それが人生というものだろう。

いろんな応援があつて恵まれすぎている、と感じる人もいるかもしれない。でも受け取り方ひとつで物事は変わるし、人にはそれぞれに合ったやり方というものがあると思う。最近の私のモットーは、“明るく元気に前向きに”である。地に足をつけて、頭を上げて、感謝の心を忘れずに歩いていけば、きっと良いことがある(と思っている)。肩肘張らずに自然体で、でも、やるときややるのよ！の精神で今日も頑張っている。

(会員)

## 町田市立図書館でも「図書館評価」を実施します！

近年、行政の各分野において、その活動を評価し、評価結果をその後の行政活動に活かすという動きが活発になってきています。図書館界においても、図書館法が2008年6月に改正され、「図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。」(第7条の3)との文言が加えられました。こうした動きに合わせ、町田市立図書館においても、「図書館評価」を実施していくこととなり、昨年7月、4名からなる「図書館評価プロジェクトチーム」が発足しました。

プロジェクトの活動は、まず、「そもそも図書館評価とはどのようなものなのか、何をしたらよいのか」についてメンバーが学ぶところから始めました。具体的には、関係する図書や雑誌記事を読んだり、既に評価を行っている図書館の情報をインターネットで収集したりといったことを行ったのですが、図書館評価の活動は最近始まったものなので、こうした資料・情報もあまりなく苦労しました。

その後、具体的な評価項目および目標の選定を行いました。これらは「町田市立図書館が今後何をを目指しているのか、どのような活動に力を入れていくのか」を表す指標ともなります。各サービス担当者とは何度も議論を重ね、また、館内会議での数回の議論を経て、評価項目を決定していきました。この間、図書館協議会にも情報提供し、委員の方からのご意見もいただいた他、定例教育委員会への報告も行いました。

上記のような経過を経て、今年6月、『町田市立図書館評価一図書館評価プロジェクト検討報告書』を発表しました。これは、評価の目的・対象・方法やそのスケジュール、

また、評価結果の公表時期や方法などについて記したものです。冊子形態のものを各図書館にて配布しているほか、図書館のホームページでもご覧いただくことができます。具体的な評価項目(43項目)も一覧表の形で見ることができますので、ぜひ、ご覧下さい。

また、図書館評価を行う際には、利用者の実態を知ることが必要不可欠になります。そこで、図書館利用者アンケートを市内全ての図書館において行うこととしました(幸運にも予算が付き、業者委託で実施できることになりました)。アンケートの実施時期は、10月下旬の水・金・日曜日を予定しています。もしも、図書館来館の際にアンケートを行っていたら、回答にご協力ください。

ところで、図書館評価の活動はまだ始まったばかりです。今回、報告書はまとまりましたが、これにもとづき各担当者がその目標達成に向けてどのように活動していけるのか、そして目標達成が実現できるのかが重要であり、そういう意味では、これから本番ということが出来ます。現在、日常業務がどんどん忙しくなっている中で、その実現には、これまで以上の職員の努力が必要になります。また、評価活動は長期的に行うことで初めて意味が出てきます。1回きりで終わらせたりすることのないよう軌道に乗せていくことが大切です。

今後の町田市立図書館をよりよいものとしていくために、図書館評価はなくてはならないものと考えています。これからの町田市立図書館の動きにご注目いただくとともに、ご意見等ありましたら、ぜひお寄せいただきたいと思っています。

中央図書館職員 吉岡 一憲  
(評価プロジェクトチームメンバー)

### 〈協議会委員紹介〉 第十三期 町田市図書館協議会が始まりました！(2009/8/1～2011/7/31)

1号 学校教育の関係者 山口 好司(2期)  
石井 清文(新任)

2号 社会教育の関係者 水越 規容子(5期)  
勘解由小路 承子(4期)

久保 礼子(3期)

市川 美奈(3期)

白柳 美智子(新任)

2号 社会教育の関係者 山口 洋(新任)

3号 学識経験のある者 沢里 冬子(3期)

松尾 昇治(2期)

「図書館協議会は、図書館の運営に関し館長の諮問に応ずると共に、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる場とする。(図書館法第二章第十四条②)」

市民の皆さん 傍聴しましょう！

次回は 10月13日(火)  
9時30分～中央図書館6F

## 子どもと本の世界とを結ぶ人

6月20日(土) 10:40~16:30 日本図書館協会にて

「育」は十分に準備をして、その子の中にあるものがゆっくりと育

全国の様々な自治体に「学校図書館を考える会」といった名称の学校図書館の充実と人の配置を求める市民運動グループが数多く生まれ、それらの相互の交流などを目的に立ち上げられたこの「全国連絡会」も、はや13回目の集会を開くこととなった。毎年北は北海道から、南は岡山や九州など、本当に全国からたくさんの仲間達がはせ参じ、熱い思いを語り合う貴重な一日となっている。

さて今回は図書館情報大学名誉教授の竹内哲先生をお招きしての午前中の講演、岡山で長く学校司書をされてきた加藤容子さんの午後の実践報告、そして参加者の意見交換と、盛りだくさんの長い一日であった。簡単に報告したい。

### 子どもと本の世界とを結ぶ人

竹内氏はお話をご自身の学校司書としての経験から始められた。氏は中学・高校と続く男子校で司書を2年間務められていたのだ。今からもう50年以上も昔のこと。その後1950年代のはじめに大学に移られ、そこで4年生に貸出しを始めた。なんとまだまだ貸出しは一般的ではなく、日野市立図書館が貸出しを始めたのがやっと65年。竹内氏はそれが理由で教授会に引っ張り出されたのだそう。ところがそこでの問答「学生は信頼できます、むしろ信頼できないのは、学生でないほうでありまして・・・」が功を奏して、教授会で正式に貸出しが、指導教授の判なしでできるようになったとのエピソードを披露された。吊るし上げの場が公認の場になったその日、氏は踊るように走って図書館へ帰ったという。

氏は教育と図書館の関わりを考えるのに、先ず「教」と「育」とを分けて考える。「教」は決められた方向へクラス全体を引っ張っていくことといえるが、

っていくのを待つことだという。もちろん学校にゆとりがあった時代は、その両面が先生たちにもよく知られていたのだが。

学校図書館はこの「育」を主とする場で、けして教え込むことをしない。図書館は人の自発性に働きかけてそれを伸ばしていこうとする考えを本質的に持っているし、また同時に、世の中が一つの方向へ流されていこうとする時に、立ち止まって「本当にそれでいいのか？」と問いかける場にもなる。これはとても貴重なことだ。

学校図書館も図書館であり、全世界が共有する大きな「知的宇宙」の一部で、人をそこへ連れて行くための入り口となる。けして本を集めて貸出しをすればいいというだけの場ではないと強調される。

どんなに小さくても、お皿にお水を張って満月の夜に外へ出れば、そこにちゃんとお月様が映るじゃないですか、との比喻は意味深長だ。規模が小さいことを馬鹿にしてはいけない。どんなに小さくとも、それが宇宙を映し出すような学校図書館でありたい。

学校図書館をあまり重要に思わない世間の風潮に対して一時は苛立ちを覚えたというが、最近では達観されたとも言われる。なぜって人がその考えを変えるのにはとても時間がかかることなのだから。しかし一例を挙げれば「タバコ」があんなにも早くに、公共の場で禁煙が当たり前になるとは思わなかった。学校図書館が充実しているのが当たり前と誰もが思うように、早くなればいいのだが、とも。

しかし期待できることは一つある、それは55年前なら図書館の話にこんなに大勢の人が集まるなどはとても考えられなかった。今はたくさんの人が、この問題を考え集まってくれる。それは市民の眼から

物事を考えようとしている証の一つではないだろうか。大きな力だと励まされた。

司書教諭との連携の問題などにも触れながら、ランガナタンの「大切なのは職員である、資料費を削ってでも人件費に回すべきだ」との言葉を引用して、そこに関わる人の大切さを話された。まさにタイトルにある「子どもと本の世界とを結ぶ人」の重要性だ。

最後に必ず氏が紹介する「理想の図書館員」のイラストを用いて、図書館の人の資質や役割を分りやすく話してくださった。ゆったりとした口調で、一つひとつの言葉が深い知恵に裏打ちされ、静かに染みとおっていくような、そんなひと時であった。

午後の加藤さんの報告も、加藤さんの人となりをし

っかり印象付ける楽しいお話で、随所で子どもたちに読み聞かせている絵本を実演して下さり、思わず知らず童心に返って聞きほれてしまった。いろいろな困難もあったであろうが、長い経験を積み重ねてきた方ならではの「蓄積の重み」をずっしりと感じる有意義な報告であった。

交流会では、前年同様先行き不安な都立高校図書館の問題や公共図書館の民間委託・指定管理者導入の話、また時期的に重なっている自治体が多いこともあってか「子ども読書活動推進計画」の話など、次々と問題提起や取り組みなどが披露された。学校司書の法制化についての提起もあり、課題を残しての閉会となった。 (会員: 水越 規容子)

### 他地区交流会参加報告

八王子に学校図書館を育てる会主催

## 学校図書館の問題 浮き彫りに!

7月13日(日) 13:30 八王子東急スクエアにて

毎年夏に開かれているこの会、今回は、川崎市、稲城市、杉並区の方も参加。またゲストとして、調布市教育委員会指導室指導係の関谷さんが参加されていました。簡単にご報告します。

まず八王子では、学校図書館にボランティアが入ってOKではなく、支援センターを開設して学校図書館がうまく機能するようにと活動を続けている。しかし、なかなか教育委員会は動いてくれない。専任司書の配置にはまだ遠い状況。

調布市関谷さんより:調布市では平成15年に、学校図書館嘱託専門員(以下 専門員)を全校配置。昨年12月の議会にて、学校図書館と公共図書館の連携を進めることと専門員の待遇改善の問題が議員から出され、改善に向け動き出している。

教育委員会に入ってみて、学校図書館に対するビジョンも何もないことに気づく。そのため予算のことも含め、なかなか理解してもらえない。調布市は小中学校合わせて28校あるが、実態がわからないと専門員へのアドバイスもできないので全校を訪問した。学校間でかなりの格差があることがわかった。また、学

校を訪問すると校長の態度で学校図書館に理解があるかどうかかわかる。

会の活動で作成した資料は、校長宛てだけに送るのではなく、先生方にも見てもらうようにするのがいいと思う。調布市立小学校図書館嘱託専門員の渡辺さんより:専門員の仕事に対する管理職の理解の差が大きい。また、専門員の中でも温度差が大きく、小中校でも違う。仕事の内容と待遇に問題があり、辞めた人もいる。研修がなかったので自分たちで行い、スキルの向上、共通理解を深めてきたのだが、そのような活動に対して反対の声、必要ないという声もある。しかし目の前に子どもたちがいる以上、何かやらなければと思い今も続けている。

これから活動していく中で大切なことのひとつとして、なぜボランティアのままではいけないのかを伝え理解してもらうことが挙げられた。

八王子に学校図書館を育てる会でも、ボランティアの人たちに、本当は専任専門の司書がいるべきなのだというを理解してもらえよう活動を続けているとのことでした。

(町田の学校図書館を考える会 伴 紀子)

## 夏休み特別企画 「虫に出会えてよかった」

矢島稔さんの 平和への思い —スライドとおはなし—

講師プロフィール  
ぐんま昆虫の森(群馬県桐生市)園長  
「夏休み子ども科学電話相談室」(NHK  
ラジオ)でおなじみの昆虫学者

◇7月25日(土)14:00~17:00

◇町田市民文学館2F大会議室 (参加者親子で65名/報告:増山)

共催:中央図書館、野津田雑木林の会、町田の図書館活動をすすめる会

何故、昆虫のことをやりだしたか、それは戦争時代をすごした子ども時代の環境が大きく左右している、として講演の前半は少年時代の体験を主に語られた。

矢島氏は中野で生まれ、大根畑の中で育ったという。満州事変、2・26事件、日清事変、と戦争が続く少年時代の記憶は、6歳、昭和11年の大雪の日にさかのぼる。銃剣を持った兵隊が並んでいた。後にそれが2・26事件だったと知る。陸軍軍容隊に、小学校1年のときから、“お国のために死ぬんだ”“贅沢は敵だ”と叩き込まれた。

中学2年から、学徒動員で赤羽にある工場に歩いて行った。勉強が優秀でも、教練一小銃を組み立てたり、網の下をもぐったり、穴の中から這い上る訓練、・・・、一ができれば単位はもらえなかった。理論ではなく格闘技だと思った。背囊を背負い、剣を持ち、石ころ拾って地面に線を書けという。みんな腰が痛くなり、泣き出す子もいた。軍人になるための教育は、体罰が当然であった。

神武天皇から昭和天皇までの124代の天皇を暗記させられもした。

このように、13、14、15歳という一番感受性の強い時代に戦争を体験した矢島氏にとって、どうしても忘れられない光景がある。中野から赤羽の鉄工所まで歩いていったときのことだ。ごろごろ転がる死体の間を歩いて、線路沿いを歩いていくが、途中、死臭を嗅ぎ、死ねばみんなこうなるのだ、という恐ろしい体験をした。しかし、半年もすると、それも慣れて普通になり感じなくなったという。

が、あるとき、焼け跡から真黒焦げの小さな遺体を捜し出し大事そうに抱えると、きれいなお召しで丁寧にくるみ、風呂敷に包んでいた女の人の姿を見た。矢島氏はこの光景をその後何度も思い出す。死ぬまで忘れないだろうと、声を震わせた。

少年団の旗を持たされて、自分の好きなことはできず、いやなことばかり、見なくてもよい場面をいっぱい見てきた。友人も3人死んだ。何も関係ない人が何人も殺された。戦争が終わった時、国のいうことを信じて疑わなかったのに、それが全部うそだったと分かり、何を信じてよいか分からなくなった。

ある日、爆弾で空いた地面の穴に水が溜まり、そこにトンボが卵を産んでいるのを見つけた。ふっと、昆虫は戦争に一切関係がないんだということに感動した。虫に救われたなあ、とそのときの様子を感慨深そうに言われたが、それが昆虫にのめりこんでいくきっかけとなった。

近くの軍隊だった施設のカラタチの垣根にアゲハチョウがいっぱい飛んでいた。終戦の年から、矢島氏は、カラタチの木に卵を産むアゲハを観察し始めた。

ファーブルが好きで、自らもファーブル昆虫記を真似て、蝶の孵化や脱皮、糞の状態、蛹化、羽化などを正確に見て書き記し、表紙・扉・目次をつけて製本した手作りの昆虫記『私の昆虫記 一卷 鳳蝶(アゲハチョウ)生態』を完成させた。16歳の時だった。世界でたった一冊の、大事にしているその本を見せて下さったが、とてもきれいな字で丁寧に描かれ製本されており、「昭和21年11月3日 矢島稔著 十六歳」と書かれた文字が誇らしく光って見えた。

矢島氏が昆虫学者としての道を歩んだ背景には、この戦争体験と、三中の先生(昆虫学者)との出会いが大きくあったという。

お話の中で何度も「何も知らされずに指導者に従わされていた当時は、人間自身がおかしくなっていた時代。情報過多の今の世の中とは何もかもが全く逆であった」と言われたが、昆虫学者の平和への思いがひしひしと伝わってきた。後半は、昆虫についてであったが、省略する。

## 第二次町田市子ども読書活動推進計画策定 作業中！ — 全市をあげての作業部会、市民の意見も取り上げる懇談会設置 —

2004年12月、町田市は、子どもや家族に関する施策の3つの基本目標「子どもが健やかに育ち一人ひとり自分の中に光るものを持っている」「子どもが安らいでいる家族があり、家族が地域とつながっている」「子どもが地域の中で大切にされている」を定め、10年計画の「町田市子どもマスタープラン」を策定しました。そのプランに、全市を上げて取り組んでほしいという願いから図書館は急ピッチで「読書推進5ヵ年計画」を策定し、「子どもマスタープラン」の巻末近くに載りました。しかし残念ながらそれは付録のような形で組み入れられ、プランそのものに浸透して掲げられたとはいいいい難しいものとなりました。

その読書推進計画も今年度が最終年度となり、2010年から5年間の二次計画策定作業が始まりました。子どもマスタープランの後期5年にこの新たな二次計画が組み入れられることになっており、今回の策定に当たっては、“5年間の成果を総括しその結果を反映させた計画であるよう”「町田市教育プラン」(2009年3月 町田市教育委員会)にも謳っております。この教育プランを見る限り、子どもの読書活動推進計画に対する期待は多大なものがあります。

二次計画は、図書館児童サービス委員会が事務局になり、庁内関連部署職員による「作業部会」を設置、そこでの検討事項を「市民有識者による懇談会」に諮り意見を求め、また庁内関連部署が検討して、教

育委員会にかけ決定し、向こう5年間を見通した「第二次町田市子ども読書推進計画」を策定するというものです。

「市民有識者による懇談会」委員は教育委員会から委嘱された10名(町田市立図書館協議会委員・町田市公立小校長会代表・町田市公立中校長会代表・町田市私立幼稚園協会代表・市内の学童保育クラブ代表・市内の障がい児の保護者の代表・市内の子どもの読書活動ボランティアの代表=筆者)で、8、9、10月と月1回計3回ほどの会合を持ち、市側から提示された推進計画案に対してそれぞれの立場で意見交換をするというもので、2回目が終わりに進行中です。しかし、町田市における図書館サービスについての共通認識にかなりの差があり、その話し合いに時間が割かれて、なかなか計画案に沿った具体的意見までに至りません。図書館がもっと市民に向けてPRする事の必要性を痛感すると共に、読書環境2極分化が拡大しているという子どものいる現場からの現状報告に、市内全ての子どもに等しく読書活動が推進され計画が実施されるように、しっかり策定に盛り込みたいという思いで一杯です。

市は、1月頃に「第二次町田市子ども読書推進計画」のパブリックコメントを募集する予定だそうですので、実りある推進計画になるよう皆さんからもご意見を出していただければと思います。(増山)

### 新刊本の紹介



## 『ホタルがすきになった日』 国松俊英=文・藤本四郎=絵

— 都会にホタルを取りもどした阿部憲男 — 佼成出版社刊 1500+税

会員の国松さんが、この夏、新しい本を出されました。

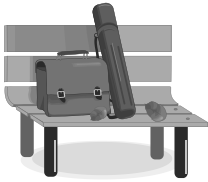
子どもの頃から虫や魚が大好きだったのに、ふとした言葉から蛍だけが苦手だった安部さんは、板橋区職員として温室植物園で働く中で努力と研究が認められ、そこで否応なくホタルの復活を任せられ、結果、ホタル博士にまでなった。

今も、ホタル飼育施設長としてエネルギーに仕事をしておられる阿部憲男さんの少年時代のエピソードから、都会にホタルを取り戻すまでの半生が、ユーモラスに丁寧に暖かい眼差しで綴られており、読みながら笑ったりホロッとしたり・・・。

努力を積み重ね成果をあげている知られざる人にスポットを当てた、国松さんならではの作品。(M<sup>4</sup>)



# ひろば



<7月例会報告> 15日(水)  
16:30~会報141号印刷  
18:00~20:00 例会  
於・中央図書館中集会室

出席/伊藤 片岡 小寺 齋川 鈴木  
高橋 手嶋 増山 丸岡 水越 守谷

2009年度 第7回 文学館(主催)で楽しむ

おとなのためのおはなし会

10月15日(木)10:30~11:30

町田市民文学館 2F大会議室

## プログラム

町田の作家「落谷虹児」の作品 杉野みな子  
「月を射る」(中国の昔話) 砂川とき江  
「清長寺の狸」(町田の民話) 酒井清武  
「一足の靴」(ピエール・グリーパリ作) 佐々木令子  
<語り:まちだ語り手の会>直接会場へ! 保育申



## イベント情報

★柿の木文庫・2009年度講演会/「まどさんの100歳詩集こぼれ話」市河紀子さん(まどさんの詩集「うふふ詩集」の編集者、現在「100歳詩集(題名未定)を編集集中」/10/2(金)10:00~12:00 於:柿の木文庫/問:042-734-3964(鈴木) 必見文庫HP

★子ども夢基金講座(主催:まちだ語り手の会)

○「昔話を聴いて育てるー伝承の語り手の内的世界ー」/山形の伝承の語り手渡部豊子さんの語り/9/26(土)14:00~16:30/町田市民ホール3F 委員活動室

○10/31(土)「わらべ唄ってなあに? 発祥から伝承まで」

①10:30~12:30 理論②14:00~16:30 実践/講師:落合美知子さん/市民フォーラム第2学習室

問:事務局042-795-3022 HP↓

<http://www.makatari.sakura.ne.jp>

★さるびあフェスタ/9/20(日)10:00~16:00/町田市民ホールで多彩なイベント有/第5会議室「絵本ワールド」(図書館の部屋)お子様連れでどうぞ!

★第24回町田子どもフェスティバル/10/25(日)10:00~15:30/南第一小学校で多彩なイベント有/おはなしの部屋へどうぞ!(問:042-725-5307 丸岡)

★秋の歴史散歩/町田の西端 相原地区の歴史を訪ねて/11/21(土) 横浜線相原駅8:30集合/八木重吉記念館・ボツダム宣言受託送信所跡・円林寺・大日堂・出羽三山供養塔・七国峠・長福寺・諏訪神社などを訪ねて7キロの行程を歩き相原駅で解散/参加費500円/主催:町田地方史研究会、申込:FAX 042-725-0510 & 葉書〒194-0022 森野 5-30-6 河合秀二郎(申込先着40名・定員オーバーの場合のみ連絡)

## あとがき

衆参両議院本会議の指名選挙において、第93代内閣総理大臣に鳩山由紀夫氏が指名を受け、今日鳩山政権が発足した。「国民の負託に応えるための政治をしていきたい」と述べていたが、国会議員が主導して政治を進めていくという変革で日本はどう変わるのか・・・、面白くなってきた政治を身近な市政と共にお茶の間で話題にしたい。(M<sup>4</sup>)

## ○会報について

○市民がつくる図書館政策について/唯一提出された手嶋案をたたき台に喧々諤々。

・どういものを作って、どう使うのかを、もっと話し合ったほうがよい/・会員の中でも、病院図書館と、患者図書館の違いが分からない人もいる。項目としていきなりそのような名称を出しても、一般利用者に伝わらないのではないかと/・個別の具体策よりも、議論が立ち戻れるよりどころ、パイプのようなものが望ましいのではないかと/・市民によって、図書館に求めるものが違う。そこをどうするか/・他市や他団体が作ったものがそのまま町田に当てはまるとは限らない。町田の現状を把握し、町田の特性を生かしたものをつくるべきでは?/・あくまでも理念を説明する形で具体的な施策を出したほうがよい/・まず我々が、どうい図書館がほしいのか、出してみないと、議論が進まない/・・・。

次回までに、各自、自分が望む図書館像、案などを考え提出することになった。

○リーフレットは会の沿革についてまとめ中。

○片岡さんより 国会図書館の憲政資料の閲覧について次号で紹介する。特に占領期の貴重な資料があるので。(⇒原稿未着。次号に)

○今年度の講演会担当者を次回決める。

○8月例会・会報は、例年どおりお休み。

## 👑 守谷さん、吉岡さんの昇級祝い&夕涼み会

8月19日(水)18:30~/於:くいものや「熊」

参加者:守谷、吉岡、海老沢、大野、黒田、手嶋、中山、野角、片岡、久保、増山、丸岡、水越、桃澤  
今年職員8名・市民6名の参加。マスターの美味しい料理に舌鼓を打ちながら夜が更けるのも忘れて喋くり、また熊に迷惑をおかけしました。謝!